

# 薬史レター

(薬史学会通信改題)

日本薬史学会

JSHP

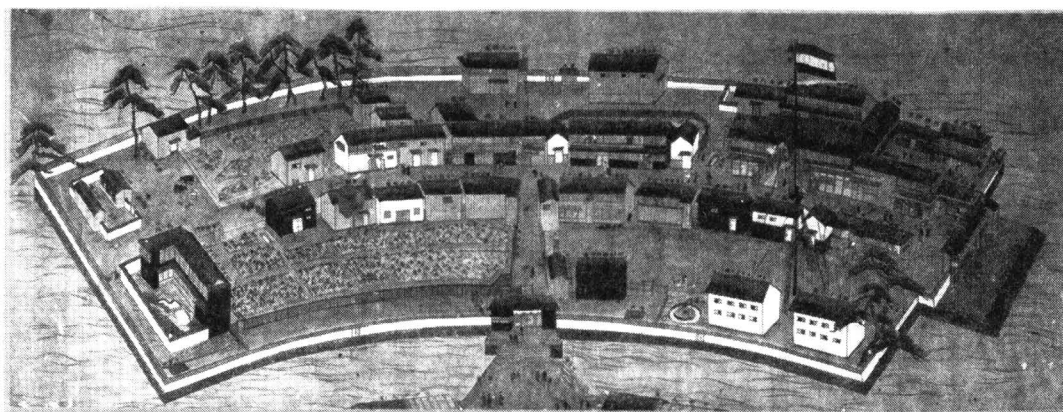


第46号

2007年9月

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (財)学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局  
TEL (03)3817-5821 FAX (03)3817-5830 URL <http://yakushi.umin.jp/>

## 日本薬史学会 2007(平成 19)年会 と 西洋医学教育発祥百五十年記念国際医学史科学史会議



本年はポンペにより近代医学・薬学が日本にもたらされてから 150 周年の記念すべき年に当たり、長崎で日本薬史学会年会を開催することは意義深いことです。そのため、日本薬史学会に日本医史学会と洋学史学会を加えた合同大会として開催されます。

更に、合同大会に先立ち西洋医学教育発祥百五十年記念国際医学史科学史会議が開催されますので、合わせてご参加下さい。料亭(松亭)での懇親会も予定しております。

長崎はここ数年、出島の復元、歴史文化博物館の整備が行われており、ご参加をお待ちしております。

年会長 芳本 忠(長崎大学薬学部)  
事務局長 黒田 直敬(長崎大学薬学部)

## 日本薬史学会 2007 (長崎) 年会を迎えて

日本薬史学会 会長 山川 浩司

17世紀末に近代西欧文明を長崎出島というピンホールのような所から日本に導入した。この長崎の地で薬史学会 2007 年会を迎えることになった。この地にオランダ軍医のポンベが来日して近代西洋医学教育と洋式病院を開花させた。長崎で最初の医学講義を行った 1887 年 11 月 12 日は長崎大学医学部創立記念日になっている。それから創立 150 周年を迎える。これを記念して国際会議とともに日本医史学会、洋学史学会との共催で開催される本年の日本薬史学会の年会には格別の期待がもたれる。

新世紀に入り 2001 年から日本薬史学会は薬学会年会に依存していた体制から自立して、独自の日本薬史学会年会を開催することになった。東京での従来の年会開催から地方で開催することを進め、2002 年富山市、2005 年札幌市、2006 年名古屋市で盛会裡に開催して実を揚げてきた。この間、2004 年に「日本薬史学会五十年史」を刊行した。

本年はこれを継承して近代日本に西洋医学、科学を導入した地の長崎市での年会開催となった。幸い多数の研究発表が寄せられ、これらの研究が論文として薬史学雑誌を飾ることが出来れば、日本薬史学会の将来展望の期待が持てることになった。会員一同とともに喜びを新たにしたい。

幸い長崎市は美しい風光と多数の文化史蹟に恵まれた「生きた街並み博物館都市」です。この年会を機会にこれらの文化を存分に吸収する機会にしてほしい。

## 日本薬史学会 2007 (平成 19) 年会参加要領

- 年 会 : 日 時 : 平成 19 年 11 月 11 日 (日)  
会 場 : 長崎大学医学部 (長崎市坂本 1 丁目 12-1) ポンベ会館  
(JR 長崎本線「浦上駅」下車、徒歩 15 分又は路面電車「浜口町」下車、徒歩 10 分)  
主 催 : 日本薬史学会  
共 催 : 長崎大学薬学部  
協 賛 : 中富記念くすり博物館・長崎県薬剤師会・長崎県病院薬剤師会・長崎市薬剤師会・  
財団法人長薬協会  
年 会 長 : 芳本 忠 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科)  
年会参加費 : 3,000 円 (学生 : 無料)  
懇親会 (11 月 10 日) : 松亭 10,000 円 (事前申込が必要です。なお、会費は当日に受付けします。)

なお、日本医史学会・日本薬史学会・洋学史学会が合同で開催されます。いずれかに参加登録しますと、他学会は無料で参加できます。

# 日本医史学会・日本薬史学会・洋学史学会合同大会

長崎市坂本 1-12-4

長崎大学医学部 A：記念講堂、B&C ポンペ会館一階 D：ポンペ会館二階

11月11日(日)

一般公開	平成 19 年度 日本医史学会 秋季大会	2007 年度 洋学史学会 秋季大会	平成 19 年度 日本薬史学会 年会
A 会場	B 会場	C 会場	D 会場
8:40 シンポジウム A 「長崎遊学」	一般演題	一般演題 特別講演	一般演題
13:10 シンポジウム B 「長崎と薬」	一般演題	一般演題 特別講演	一般演題
15:00 シンポジウム C 「本草から植物学へ」			シンポジウム D 15:20 「薬学教育の黎明」
18:00 市民公開講座 「近代科学と医学に貢献した偉人たち」			
	オーガナイザー		
シンポジウム A 長崎遊学	相川 忠臣、姫野 順一、酒井 シヅ		
シンポジウム B 長崎と薬	遠藤 次郎、酒井 シヅ、ウォルフガング・ミヒエル		
シンポジウム C 本草から植物学	ウォルフガング・ミヒエル		
シンポジウム D 薬学教育の黎明	山川 浩司、中島 憲一郎		

シンポジウム A、B、C は一般公開

## シンポジウム A 「長崎遊学」 一般公開 A 会場

8:40~8:50 開会の挨拶

相川 忠臣(平成 19 年度日本医史学会秋季大会会長)

8:50~10:30

- |                                  |       |
|----------------------------------|-------|
| 1. 長崎に留学した中津の蘭学者達                | 川蔦 真人 |
| 2. 加賀藩医師「伍堂卓爾」の長崎遊学について          | 金谷 利勝 |
| 3. 中島宗仙の筑紫行雑記(文政 6 年一医師の長崎遊学旅行記) | 中島 洋一 |
| 4. 三浦梅園の長崎紀行                     | 佐藤 裕  |

(休憩 10 分)

10:40~12:00

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 5. 長崎に遊学した眼科医達      | 園田 真也 |
| 6. 佐藤舜海(尚中)の長崎遊学の意義 | 酒井 シヅ |
| 7. 中島治平とハルデスの講義     | 吉田 忠  |
| 8. 中国から長崎に来た医師たち    | 郭 秀梅  |

(昼食 60 分)



シンポジウム B「長崎と薬」一般公開 A 会場

13:10~14:50

- |                                    |       |
|------------------------------------|-------|
| 1. 舶来の珍奇生薬                         | 遠藤 次郎 |
| 2. ツェンペリーと水銀水                      | 高橋 文  |
| 3. 長崎除薬種と幕府医官                      | 町 泉寿郎 |
| 4. 安政五年コレラ流行についてのポンペの建言書から芳香散の触書まで | 萩原 通弘 |

シンポジウム C「本草から植物学へ」一般公開 A 会場

15:00~16:15

- |                      |         |
|----------------------|---------|
| 1. 日本独自の本草学の誕生について   | W. ミヒエル |
| 2. シーボルトと桂川甫賢、宇田川榕庵  | 山口 隆男   |
| 3. 「泰西本草名疏」から「草木図説」へ | 遠藤 正治   |

16:25~17:15

- |                               |      |
|-------------------------------|------|
| 4. 十九世紀における植物研究と商業園芸          | 平野 恵 |
| 5. 幕末期、本草学者の果たした役割—阿部櫛斎を例として— | 平野 満 |

(夕食 45 分)

市民公開講座 近代科学と医学に貢献した偉人たち A 会場

18:00~21:00

- |                       |               |
|-----------------------|---------------|
| 1. 相良知安とドイツ医学         | 相良 隆弘(知安曾孫嫡子) |
| 2. 長与専斎—医療体制確立への闘い—   | 外山 幹夫(長崎大学)   |
| 3. 長井長義の長崎日記          | 渋谷 雅之(徳島大学)   |
| 4. 佐野常民と海軍伝習          | 福岡 博(佐野常民記念館) |
| 5. 本木昌造—複製技術の展開—      | 若木 太一(長崎大学)   |
| 6. 上野彦馬のインテリクチャルヒストリー | 姫野 順一(長崎大学)   |

## 日本薬史学会 2007 (平成 19) 年会 プログラム

### D 会場 ポンペ会館 2 階

開会(8:40~8:50)

日本薬史学会 2007 年会 事務局長 黒田 直敬

開会の辞

日本薬史学会 2007 年会 会長 芳本 忠

挨拶

日本薬史学会 会長 山川 浩司

一般講演 午前の部・1 (8:50~10:30)

8:50 1. 「呉普本草」に採録されている薬物

塩原 仁子(昭和大薬学部)

9:10 2. 薬師如来像への日本人の祈り

奥田 潤(名城大薬学部)

- 9:30 3. 「濟生卑言」：石見銀山の治病対策と用いられた処方について  
成田 研一(島根県済生会高砂病院・薬局)
- 9:50 4. 医と薬の相克-Apothecaries Act(1815)の成立を巡って  
柳澤 波香(青山学院大・津田塾大)
- 10:10 5. 何故、日本で(生薬の)修治が省略される傾向にあるのか  
山下 嘉昭((株)ハートフェルト)
- 10:30～10:40 休憩

**一般講演 午前の部・2 (10:40～12:20)**

- 10:40 6. 江戸期版本牛療治調法記に関する考察  
○宮本 如奈(同志社大文学部)、  
畠山 有理(長崎大薬学部)、高倉 弘士(立命館大大学院社会学)
- 11:00 7. 江戸安政期書写版「牛医書」に関する考察  
○高倉 弘士(立命館大大学院社会学)、  
畠山 有理(長崎大薬学部)、宮本 如奈(同志社大文学部)
- 11:20 8. 明治初期に作られた「牛病新書」に記載されている薬品に関する考察  
○白井 一城(北陸大薬学部)、畠山 有理(長崎大薬学部)
- 11:40 9. 星 一の著作を追って  
三澤 美和(星薬科大)
- 12:00 10. 星 一によるわが国初のキニーネ製造と輸出事業  
○山 朝江(やま内科胃腸科医院薬)、三澤 美和(星薬科大)
- 12:20～13:10 昼食・休憩(場所)

**一般講演 午後の部・1 (13:10～14:10)**

- 13:10 11. 明治初期の衛生化学と足尾鉍山鉍毒事件  
○末廣 雅也、川瀬 清(日本薬史学会)
- 13:30 12. アミノ酸系医薬品開発 50 年の変遷  
○荒井 裕美子、榎原 統子((財)日本医薬情報センター)、松本 和男(日本薬史学会)
- 13:50 13. 薬効評価の三「た」論法再訪 -EBM と best case project の時代を背景に-  
津谷 喜一郎(東京大大学院薬学系)
- 14:10～14:20 休憩

**一般講演 午後の部・2 (14:20～15:20)**

- 14:20 14. ドラッグストアの歴史に関する一考察(その2)  
○佐藤 知樹(日本医歯薬専)、串田 一樹(日本薬科大)
- 14:40 15. 学校薬剤師制度の今日的意義  
○宮本 法子(東京薬科大薬学部)、高橋 文(日本薬史学会)
- 15:00 16. 日米欧薬史学会ウェブサイトの比較  
○五位野 政彦(東京海道病院薬剤科)、宮崎 啓一(三栄化工(株))

**シンポジウム D「薬学教育の黎明」(15:20～17:20)**

- 15:20 17. 日本における薬学、薬剤師が誕生してから 150 年  
座長 中島 憲一郎、山川 浩司  
日本薬史学会会長 山川 浩司
18. 江戸時代の薬物教育  
大阪大学医学部 米田 該典

16:05 19. 明治・大正の薬学教育の中の化学教育  
16:30 20. 医薬の科学から見た日本の薬学  
16:55 21. 長崎における薬剤師会の設立と活動  
閉会の辞

長崎大学環境科学部 富永 義則  
日本薬史学会 川瀬 清  
長崎市薬剤師会会長 永田 修一  
日本薬史学会 2007 年会 副会長 中島 憲一郎

## 平成 19 年度日本医史学会秋季大会 プログラム

### B 会場 ポンペ会館 1 階

8:45

開会の挨拶

ウォルフガング・ミヒェル 平成 19 年度日本医史学会秋季大会副会長

一般演題

8:50~10:30

1. サンタ・マリア・デラ・スカラ病院における捨子養育活動 柳澤 波香
2. なぜ「ドン・キホーテ」なのか 小曾戸 明子
3. ホメオパシー患者が読んだ疾病記事：「ライプツィヒ・ホメオパシー民衆雑誌」の分析(1871~1939年) 服部 伸
4. 「宇治捨遺物語」の中での身体に係わる表現 計良 吉則
5. 口述筆記の医学書にみられるオノマトペ「蕉窓雑話」を中心に 守山 恵子

(休憩 10 分)

10:40~12:00

6. 関格について 小高 修司
7. 谷川家処方集に見られる脚気治療処方箋 西井 易穂
8. 間宮林蔵の死因 杉浦 守邦
9. 幕末沼津藩士の日記にみる養生 鈴木 則子

(昼食 70 分)

13:10~15:10

10. 佐賀藩医馬郡元孝の戊辰戦争従軍記 青木 歳幸
11. ポンペと榎本武揚 稲木 静恵
12. 緒方惟準(洪庵嗣子)とポンペ・ボードイン・ブッケマとの交流 中山 沃
13. 市場・共同体—明治期コレラを再考する 鈴木 晃仁
14. 明治 11 年「刀圭雑誌」第 1 号にみる血管結紮術 田中 祐尾
15. 旧満州国における医学標本の収集について 末永 恵子

15:10

閉会の挨拶

相川 忠臣 平成 19 年度日本医史学会秋季大会会長

## 2007年洋学史学会秋季大会 プログラム

### C会場 ポンペ会館1階

8:40~8:50

開会の挨拶

ハルメン・ボイスケルス 2007年度洋学史学会秋季大会会長

#### 一般演題

8:50~10:05

1. ポンペの眼科講義録について ○山之内 卯一、相川 忠臣、Harmen Beukers
2. ポンペ種痘書の普及について 田崎 哲郎
3. ポンペの地学への関心—日本産出鉱物コレクションを中心に—  
○大沢 真澄、塚原 東吾、財城 真寿美

(休憩 10分)

10:15~11:30

4. 上野俊之丞と「砲家秘図」 八耳 俊文
5. 錦絵になったお雇い教師 T. H. ヨングハンス 加藤 詔士
6. アングリカン教会の日本伝道とその受容 井上 治

(休憩 10分)

#### 特別講演

座長 ハルメン・ボイスケルス

11:40~12:05

- 新発見の長崎製鉄所図面について(仮題) A. A. Lemmers(オランダ海軍省)(英語)

(昼食 65分)

13:10~14:00

7. 中村雄吉訳著の3部の検証…  
「普語箋(上下)」 「独逸文典直訳(カドリー著)」 「英独和(語と会話)」 金谷 利勝
8. 長崎の洋学が生んだ司法官・名村泰蔵 長沼 秀明

(休憩 10分)

#### 特別講演

座長 相川 忠臣

14:10~14:50

- 長崎居留地と西洋医学 ブライアン・パークガフニ(長崎総科大学)

(休憩 10分)

シンポジウムC「本草から植物学へ」A会場 市民公開

15:00~16:15

1. 日本独自の本草学の誕生について W. ミヒエル
2. シーボルトと桂川甫賢、宇田川榕庵 山口 隆男
3. 「泰西本草名疏」から「草木図説」へ 遠藤 正治

16:25~17:15

4. 十九世紀における植物研究と商業園芸 平野 恵
5. 幕末期、本草学者の果たした役割—阿部櫛斎を例として— 平野 満

17:15 閉会の辞

姫野 順一 2007年度洋学史学会秋季大会副会長

## 西洋医学教育発祥 150 年記念国際医学史・科学史会議

International Historical Conference: 150<sup>th</sup> Anniversary of the Beginning  
of Modern Western-style Medical Education in Japan

英語での講演、スライドは英語と日本語、市民公開、イヤホンによる同時通訳

### Section 1: Contribution of the Netherlands to Modern Medicine and Pharmacy in Japan

#### オランダの日本の近代医学と薬学への貢献

8:45~9:00 開会の挨拶

11月9日 金曜日 9:00-12:00

1. 越境と知的好奇心ー近代医学へ至る道 Wolfgang Michel (九州大学)
2. 国際感染症とその予防 Andreas Mettenleiter (Wuerzburg University)
3. ポンペの跡を継いだオランダ人教師達 Harmen Beukers (Leiden University)
4. 日本の近代薬学の導入における A.J.C. Geerts を初めとするオランダ人薬剤師達の役割  
Annette I. Bierman (President of the society of history of  
pharmacy in the Netherlands and Belgium)

### Section 2: General papers 一般演題 oral and poster 講演とポスター

11月9日 金曜日 13:00-14:20

#### Oral

1. Who interpolated sentence on the 'pancreas' at the Aristotle's *Histria Animalium*?  
Ryoichi Tsuchiya
2. The transmission and diffusion of Jesuit cosmology in early modern Japan.  
Ryuji Hiraoka
3. The Relationship between Kagahan Doctor GODOU Takuji and Dutch Doctor Pieter  
J.A. SLUYS Toshikatsu Kanaya
4. A Study of the Children born with a Caul as seen in the Ancient Japanese Tales  
Hanna Uchino

(Tea time 10 min)

14:30-15:50

5. Hirano Jusei, the Author of "Byoka suchi" (1832) and His idea of Natural Healing Power  
○Machiko Hirano and Keiko Daidoji
6. Pompe's works related to Science on Earth and Environment: Rocks and Minerals, Weather,  
Bathing at Beach and Drinking Milk.  
○Togo Tsukahara, Masumi Zaikai, Kaworu Nakagami and Masumi Osawa
7. The Introduction and the Spread of Bacteria Test in the Sanitary Administrations in Japan.  
Yoko Yokota
8. The Development of Scientific Medicine at the University of Oxford Yukiko Himeno

#### Poster



9. De Rotz's Manikin Kazuyo Onishi  
 10. The transition of the prohibited acts and the limitation of the users in Public baths.  
Miki Kawabata

### Section 3: The Dawn of Modern Science and Technology in Japan

11月9日 金曜日 16:00-19:00

1. 近代化学への道 芝 哲夫(大阪大学)
2. オランダ海軍と19世紀における日本への科学技術伝習  
A.A.Lemmers(The National Institute for military history, the Netherlands)
3. 日本における西洋科学技術の教師ファン・デン・ブルック博士 (1853-1857)  
H.J.Moeshart (Leiden University)
4. 佐賀藩の近代科学技術 長野 暉(佐賀大学)

### 懇親会 医学部キャンパス

11月9日 金曜日 19:20

11月10日 土曜日 8:40~8:50

挨拶 Jan A. Bruijn Professor, Leiden University Medical Center, Dean of Medical Studies  
 挨拶 酒井 シヅ 日本医史学会理事長、順天堂大学医学部教授

### Section 4: The Beginning of Modern Western-style Medical Education by Pompe van Meerdervoort ポンペによる近代西洋医学教育の創始

11月10日 土曜日 8:50-12:20

1. 日本における医学のパイオニア ポンペ・ファン・メールデルフォールト  
Harmen Beukers(ライデン大学)
  2. ポンペのオランダ語講義録の研究 相川 忠臣、Harmen Beukers、酒井 シヅ、山之内 卯一
  3. ポンペの薬学と化学 芳本 忠
  4. オズーの人体解剖模型と日本 月澤 美代子(順天堂大学)、 Wolfgang Michel(九州大学)
  5. 松本良順 酒井 シヅ
- 12:20 閉会の挨拶 相川 忠臣 国際医学史・科学史会議副会長、長崎大学医学部教授

### 西洋医学教育発祥 150年記念・長崎大学医学部創立 150周年記念式典

11月10日 土曜日 14:00-18:00

### 記念式典

### 記念講演

小和田 恒 国際司法裁判所判事(オランダ デン・ハーグ)  
 Stanley B. Prusiner 1997年度ノーベル賞受賞者

懇親会 松亭 本石灰町 6-10(思案橋電停車、正覚寺方向へ右側歩道 1分)

11月10日 土曜日 19:00-21:30

### 参加申込

年会参加申込:日本薬史学会ホームページ(<http://yakushi.umin.jp/>)より参加申込フォームをダウンロードして頂き、参加申込書の必要事項を記入後、E-mail の添付文章で(FAX も可)年会事務局へお送り下さい。

なお、年会、国際会議、松亭での懇親会費(事前登録のみ)はそれぞれ当日お支払い頂きます。また、年会時の昼食は医学部食堂の利用が可能で、周辺でも食事可能です。

年会申込締切:平成19年10月11日(木)(必着)

年会事務局 連絡先:長崎大学薬学部 黒田直敬

〒852-8521 長崎市文教町 1-14

電話:095-819-2894 FAX:095-819-2444 E-mail:n-kuro@nagasaki-u.ac.jp

- ・航空機利用:長崎空港(大村市)から浦上経由長崎方面行きバスで「浦上駅前(うらかみえきまえ)」で下車(約55分・料金800円)、徒歩約15分
- ・JR利用:長崎本線「浦上駅」下車、バス利用又は徒歩(約15分)
- ・路面電車利用:「長崎駅前」から「赤迫(あかさこ)」行き、「浜口町(はまぐちまち)」で下車(徒歩約10分)料金100円
- ・「下大橋(しもおおはし)」行き長崎バス8番系統(医大経由)に乗り「医学部前(いがくぶまえ)」で下車(約12~15分)



会場への交通



坂本キャンパス内

日本薬史学会 2007(平成 19)年会  
参加申込書

所属									
TEL	FAX								
住所 〒									
ふりがな 氏 名									
<p>参加費(ご希望のものを○で囲んで下さい)</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 70%;">日本薬史学会 2007(平成 19)年会</td> <td style="text-align: right;">¥ 3,000</td> </tr> <tr> <td>国際会議</td> <td style="text-align: right;">¥ 7,000</td> </tr> <tr> <td>11月10日、料亭(松亭)での晩餐会費</td> <td style="text-align: right;">¥10,000</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合 計</td> <td style="text-align: right;">¥</td> </tr> </table>		日本薬史学会 2007(平成 19)年会	¥ 3,000	国際会議	¥ 7,000	11月10日、料亭(松亭)での晩餐会費	¥10,000	合 計	¥
日本薬史学会 2007(平成 19)年会	¥ 3,000								
国際会議	¥ 7,000								
11月10日、料亭(松亭)での晩餐会費	¥10,000								
合 計	¥								

注、年会参加費は当日会場で受付けます。

料亭(松亭)での晩餐会(11月10日)は事前受付けのみとし、会費は当日受付けます。

**長崎年会・長崎市内および近郊の医薬史跡案内と特別企画展**

日本の近代薬学の歴史は長崎出島を舞台にオランダとの交流から始まる。幕末から明治にかけ多くのオランダ人薬剤師・医師が長崎で実務と教鞭をとり、教育を受けた多くの日本人が各地で活躍し、現在の薬学が確立されてきた。長崎を中心とした近代薬学導入の歴史を追ってみると、日本薬局方の草稿者であるオランダ人薬剤師ゲールツは、明治2年長崎府医学校で教鞭をとっていた。このゲールツを雇ったのが長崎府医学校長の長与専齋である。長崎大村の出身で、ポンペに学び、後に文部省医務局長となり、薬学の創始にあたった。日本薬学会の創始者である長井長義は蜂須賀藩の命により長崎に留学している。また、高峰讓吉も加賀藩から長崎に留学している。彼らはいずれも当時長崎精得館に設けられた分析究理所のハラタマを頼って留学していた。化学は当時の最先端技術であったが、写真家の開祖として知られる上野彦馬は化学の実験書「舎密局必携」を記しており、薬学と関係深い。医学校のポンペに化学を学んでいる。さらに、時代をさかのぼると、長崎出島の商館医シーボルトとその薬剤師ビュルガーに至る。シーボルトは当時の西洋医学の最新情報を日本へ伝えると同時に、日本の植物や文化情報をヨーロッパに伝えた。シーボルトの研究協力者であったビュルガーは、日本最初の近代的薬剤師であり、医薬分業の先鞭をつけた。このような歴史的背景を持つ長崎の医薬史跡は枚挙に遑がないが、以下に主なものを紹介する。

〔長崎市内〕

・長崎歴史文化博物館

長崎奉行所立山役所の一部を復元、整備。古文書、郷土資料、美術資料など長崎県と長崎市が所蔵する歴史資料を一堂に集め、展示する。収蔵点数はおよそ4万8000点。

特別企画「勝海舟と長崎近代化展(仮)」11月3日～12月9日開催予定、本企画は西洋医学教育発祥百五十年記念国際医学史科学史会議に合わせたものです。

所在地：長崎県長崎市立山1-1-1(JR長崎駅から長崎電気軌道3号系統で2分、桜町電停下車、徒歩5分)

#### ・シーボルト記念館

長崎市都市景観建築賞を受賞したロマンチックな建物は、オランダのライデン市にあるシーボルト旧宅をイメージしたもの。展示および所蔵数はシーボルト使用の葉籠をはじめとしておよそ2600点にのぼる。

特別企画「シーボルトと蘭学大名」11月1日～12月2日開催予定

所在地：長崎県長崎市鳴滝2-7-40(JR長崎駅から長崎電気軌道3号系統で8分、新中川町電停下車、徒歩7分)

#### ・長崎出島オランダ商館

出島全体は大正11年(1922)10月、「出島和蘭商館跡」として国指定史跡となる。この出島を通じて、日本とヨーロッパを結ぶ経済・文化・学術の交流が行われ、日本の近代文化に大きな役割を果たした。

特別企画「出島絵図展(仮)」10月5日～3月31日開催予定

所在地：長崎県長崎市出島町6-1(JR長崎駅から長崎電気軌道1号系統で5分、出島電停下車すぐ)

#### ・上野彦馬宅跡

日本写真術の開祖として知られる上野彦馬が創設した上野撮影局の跡地である。彦馬はここで坂本龍馬を撮影したといわれる。なお、上野彦馬の胸像は諏訪神社に隣接した諏訪公園下の緑に囲まれた県立図書館前に建っている。また、彦馬の資料や明治・大正期の長崎に関する写真を多数展示する古写真資料館は長崎市東山手町6-25にある。

所在地：長崎県長崎市伊勢町4-14(JR長崎駅から長崎電気軌道3号系統で8分、新大工町電停下車すぐ)

#### ・医学伝習所跡

「医学伝習所」は海軍伝習所があった長崎奉行所内に設けられ、幕府の医官松本良順や長与専齋らにオランダ海軍の軍医ポンペ・ファン・メーデルフォールが近代医学を講じたところで、日本における最初の西洋医学学校である。ちなみにポンペが最初の講義を行った11月12日は長崎大学医学部の創立記念日になっている。なお、「医学伝習所跡」の石碑の隣にはわが国の活版印刷における先駆者である本木昌造の碑が建てられている。

所在地：長崎市万才町(JR長崎駅から長崎電気軌道1号系統で6分、西浜町下車、長崎グランドホテル前)

#### ・如己堂・永井隆記念館

原爆落下中心地から北約1キロメートルのところに、故永井隆博士の生前の住まいであった如己堂(によこどう)がある。如己堂とは「己の如く隣人を愛せよ」という聖書の言葉から博士が名づけたものである。永井隆博士は長崎医科大学の助教授として、以前より患っていた白血病と闘いながら被爆者の救護にあたった。その後、白血病が悪化し、近所の人々の好意を得て建てられたという如己堂で病床に伏すなかで6年間、多くの著作活動を通じて「祈りの長崎」の象徴的存在となったが、昭和26年5月1日に永眠された。如己堂の裏にはこれらの資料を収めた永井隆記念館がある。



所在地：長崎県長崎市上野町 22-6(JR 長崎駅から長崎電気軌道 1 号及び 3 号系統で 17 分、大橋電停下車、徒歩 7 分)

〔長崎県大村市〕

・長与専齋旧宅

初代衛生局長として近代医学の基礎を築き、「衛生」の用語をつくったことで知られる長与専齋の旧宅。今は専齋の雅号をとって「松香館」と呼ばれている。もともとは、海岸部に近い片町にあったが、長崎医療センター内に移築されている。

所在地：長崎県大村市久原 2-1030-1(JR 大村線大村駅から県営バス向木場行きで 15 分、長崎医療センター前下車すぐ)

〔佐賀県鳥栖市〕

・中富記念くすり博物館

イタリアの彫刻家チェッコ・ボナノッテ設計によるモダンな建物。1 階は 19 世紀末のロンドンのアトキン薬局を移設再現。2 階は配置薬の「田代売薬」についての資料を展示。

所在地：佐賀県鳥栖市神辺町 288-1(JR 鹿児島本線弥生が丘駅から徒歩 20 分)

## 特別展「花—太古の花から青いバラまで—」

高橋 文

上野の国立博物館で 2007 年 3 月 24 日から 6 月 17 日まで、花に関する展覧会が開かれている。今年、スウェーデンの有名な自然学者カール・フォン・リンネ(Carl von Linne,1707~1778)の生誕 300 年の年であり、スウェーデンでは国内外をあげていくつかの祝賀行事が行われているが、日本ではこの「特別展 花」の第二会場が特にリンネの業績を紹介している。すなわち、1735 年に出版され植物などの分類体系を発表した著作「自然の体系」の初版の復刻版や自筆の手紙、オランダの大学へ提出して博士号を受けた学位論文「間歇熱の原因について」などの貴重な資料が展示されている。さらに言えば、3 月 27 日にはリンネのこの『自然の体系』の原本が展示され、天皇・皇后両陛下がご覧になっておられるのをテレビは放映していたが、原本がスウェーデン国外へ出ることを許されたのは今回が初めてということであり、スウェーデンと日本の学問・文化交流の絆の強さを感じる展覧会でもある。

第一会場では、現在の地球上には 25 万種があるといわれる顕花植物について、最古の花の化石から最先端の技術を駆使して作られた青いバラまでも見ることができる。さまざまな花の形としてその誕生と進化、花の多様化、そして多様な花の色の世界として花の色の構成色素はアントシアニンとベタシアニンと呼ばれる色素群に分けられるとしている。香りの成分では実際に匂いをかぐことができるし、華麗なる花の世界では映像を楽しむこともできる。世界の不思議な花ではテレビで見たことのあるラフレシアやスマトラオオコンニャク、キソウテンガイなど、そしてヒマラヤに咲く青いケシをはじめ、乾燥地、熱帯、高山、オーストラリア各地に生育する花など、またバラ、アジサイ、チューリップ、ハナシヨウブなどの園芸品種等々、すべて生花でみることができるのも本展の特徴である。

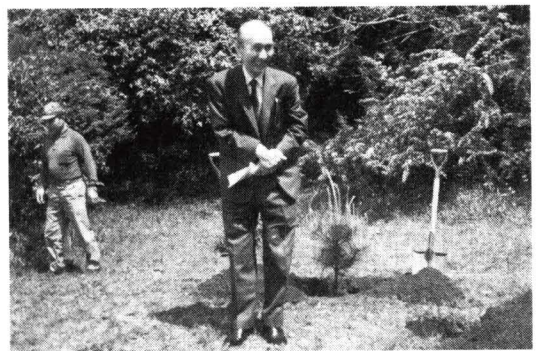


これらの花々を楽しんだあと花の研究史の部屋に導かれると、20世紀初頭に花の色の解明に取り組んだ科学者の紹介があり、とくに二人の科学者についての説明は印象的であった。その一人は柴田桂太先生(1877～1949)、前薬史学会会長・柴田承二先生の父上である。自然界の花の色のうち橙赤～赤～紫～青の色のほとんどはアントシアニンによって発現しており、このアントシアニンによる花色の変異の要因をめぐって多くの研究がなされているが、桂太先生は金属錯体説を提唱した。ドイツのヴィルシュテッターは花色変異の大きな要因は花卉の pH であると考え、1915年に pH 説を提唱した。桂太先生はこれに疑問を持ち、多くの研究に取り組み、その研究結果をもとに、青色の発現はアントシアニンとマグネシウムなどの金属元素とその錯体によるものとして、1919年に金属錯体説を提唱したのである。このコーナーには桂太先生自筆の実験ノートや研究材料としてドイツ製の二鏡筒タイプの観測機器なども展示されている。承二先生の『薬学研究余録』(2003、白日社)を繙くと、その辺の事について次のように書いておられる。「——父は錯体説に確信を持っていたが、当時は、積極的にそれ以上証明することがなかなか困難であった。そこで大正15年頃から、門下の服部静夫、後に林孝三の協力を得て、まず植物界におけるアントシアニンの分布とその同定と化学構造を広く徹底的に研究し、材料を十分に整えた上で、二十数年経った戦争直後、再び錯体説の立証に挑んだ。それはムラサキツユクサの青い花の搾汁から、酸を使わずに中性で処理した結果、青色の比較的安定な沈殿を得たことに始まった。これを精製して結晶としたものをコンメリンと名付けた。この仕事が印刷公表に至る前に父はこの世を去ったが、実験は林孝三によって続けられ、その青色色素の化学構造が二分子のアントシアニン、アオバニンと、二分子のフラボン配糖体フラボコンメリンが一原子のマグネシウムと共役した錯体であるという結論に達した。ここに、数十年前に提出した花色変異の金属錯体説を実証することができた。この論文は、1997年、日本学士院紀要53巻に発表された。——」。



柴田 桂太先生 (69才)  
昭和20年11月13日  
岩田研究所10周年記念会当日撮影

もう一人の科学者は林孝三先生(1909～1995)で、青色花発現の機構—柴田桂太らの金属錯体説を実証した人として紹介されている。ここには、林先生が発表した論文を掲載した学術誌「ファルマツイー」の別刷と、林先生のスケッチノート、分離した色素の結晶標本、また柴田桂太教授の植物生理学講義をうけた林孝三先生のノートなどが展示されており、ノートの見開きに、昭和4年4月から昭和5年3月までの1年間の講義内容を筆記したものであり、毎週1.5時間で殆ど休講はなかったと述べ、昭和58年4月10日、柴田記念館へ納めると自筆で綴っておられる。林孝三先生とは、ツェンペリー来日200年記念祭の準備会で何回かお会いし、東京・京都・長崎での記念祭(1976.5.17～25)では同行させて頂いたので、その



1976年5月ツェンペリー来日記念行事として小石川植物園にてクロマツの植樹に際して、挨拶をする 植物学会会長 林 孝三先生

穏やかな人柄とともに緻密な研究者としての一端にも触れることができた。桂太先生のあとを継いだ研究については林先生の『私の研究履歴書—昭和植物学 60 年を歩む—』(1996、林孝三先生記念出版会)に詳細に綴られている。

花色解明に取り組んだ師第 2 代にわたる科学者の展示は、見るものに生き生きとした印象を与え、その底に流れるすがすがしい絆を思い描く。

この展覧会でもう一つ忘れられないのは、1997 年 6 月 13 日、第 33 回国際薬史会議(スウェーデン)で私はストックホルムのコンサートホールでツェンベリーに関する口頭発表をしたが、その時に補足を加えて下さったスウェーデン人の Dr.Ove Hagelin に、科学博物館の廊下でばったり出会ったことである。氏は、1993 年に千葉県立中央博物館に収蔵されたリンネに関する膨大なコレクションを実質的に収集した者であるとストックホルムで語っておられたが、この機会に来日されたようである。薬史学を追いかけっていると、10 年後こんな偶然にもぶつかることがあるのだと、感じ入っているところである。

(2007 年 6 月 14 日記)

## ◆北海道支部だより

### 日本薬史学会 北海道支部平成 19 年度総会・例会(報告)

#### はじめに

新緑の眩しい 5 月 26・27 の 2 日間、第 54 回北海道薬学大会が開催され、当支部は「薬史部門」として参画しましたので、その実施状況を記します。

#### 今年は温泉元年!

今例会の特色は、温泉をテーマに選んだ点にあります。理由は、①本年 4 月、温泉法が改正され(平成 20 年施行)、温泉行政・研究の歴史上、今年は記念すべき年になること、②温泉研究における薬学の貢献度は大きく、温泉を温泉学に高めた先達の業績を検証するチャンスであること、③これを機に、温泉天国である北海道の温泉場の歴史研究の端緒にすること、などです。

#### 総会

開会の挨拶で斎藤元護支部長は、①今例会がミニ温泉シンポジウムとなった上記経緯を説明し、②今秋開催予定の「合同学術集会」は当支部が担当するので、盛会にしたい旨の決意を述べました。

議題は、18 年度事業・会計・会計監査の各報告。次いで、19 年度事業計画案とそれに基づく同予算案が提出され順次承認。支部活動の維持・活性化に財源の確保は必須条件だが、常に頭痛の種。しかし、今年導入の支部賛助会員の制度は窮余の一策となりそうで安堵、との説明がありました。総会は、支部会員(40 名)の半数を超える 21 名の出席を得て滞りなく終了。

#### 例会：特別講演

講演は、北海道大学 教育学研究院 大塚吉則教授による「現代の温泉医学」。温泉ブームに相応しい楽しく素晴らしい内容でした。温泉場の現状から始まり、温泉の定義・種類など基本的な用語を分かりやすく説明された後、ご専門の温泉療法について目的や効能、注意や禁忌などに触れましたが、私達が最も知りたいところです。先生のお人柄も強く記憶に残ります。聴く者をして温泉に浸かっているような心豊かな気分誘い、90 分があっという間に過ぎた感じです。ユーモアたっぷりの話術と癒し的な先生のお人柄は、忘れられません。



入場者数は 89 名で会場は超満員。内訳は当会会員 21 名、非会員 68 名(道薬会員：46 名、一般市民：22 名)。一般市民からは持病の具体的な質問が続々と寄せられ、会場は熱気に包まれたものです。

#### 例会：会員の研究発表

会員による研究発表では、「薬学における温泉研究の歴史」と題する 3 演題(ポスター発表)が寄せられ、それらは下記のサブタイトルⅠ～Ⅲの連載です。講演の要旨は割愛します。

- Ⅰ 内務省衛生局雑誌第 1 号(明治 9 年)から窺える当時の温泉分析と温泉療法 ○田中稔泰(北海道薬剤師会公衆衛生検査センター：以下、道薬検)、吉田博文(同)、吉沢逸雄(薬史学会)、高田昌彦(同)。
- Ⅱ 明治初期の薬学雑誌から見た温泉研究の実情 ○吉沢逸雄(薬史学会)、田中稔泰(道薬検)、吉田博文(同)、八木直美(北海道医療大・薬)、高田昌彦(薬史学会)。
- Ⅲ 石館守三および協力者の業績 ○八木直美(北海道医療大・薬)、田中稔泰(道薬検)、吉田博文(同)、吉沢逸雄(薬史学会)、高田昌彦(同)。

#### おわりに

北海道の薬業界の関係者が一同に会する北海道薬学大会、年々研究発表も質・量ともにアップし、長年の会場札幌市教育文化会館も手狭となってきたので、来年は新たな会場を予定しているそうです。今年、その予行演習的な意味合いもあり、全会員が頑張って参画したと思われます。来年以降の発展が期待されます。

(日本薬史学会北海道支部 事務局長：吉沢逸雄)

#### ◎図書紹介

### くらしとくすりのケアルテット—薬 環境・霞ヶ浦 暮らし—

奥井登美子 著 筑波書林(茨城県土浦市)(2007 年 7 月)発行

ISBN978-4-86004-069-7 定価 1,500 円(税込み)

著者は本会評議員で、開局薬剤師の第一線で活躍している。同時に地元、霞ヶ浦の水質汚染対策に薬剤師の目を取り組んで市民運動のリーダーとして地道な活動を続けておられることはご承知の通り。此の間の文筆活動の成果である「くずかごの唄Ⅴ」(筑波書林)に対して 1995 年に茨城文学賞が授与された。本書は「くすり」29 編、「環境・霞ヶ浦」29 編、「くらし」32 編の短編随筆で構成されている。何れも軽妙なタッチで今日の問題が記されて示唆に富むことを記して、一読をお勧めする。

(末廣雅也)

- (1) 5 月中旬に平成 19 年度の会費納入用の郵便振替用紙をお送りしてあります。未納の方は至急に納入されるようお願い致します。
- (2) 薬史レターへの投稿をお待ちしています。薬史学会通信 No.41 に掲載されている「薬史レター投稿のヒント」を参照下さい。